

下関市立大学広報

2002年6月1日 第37号

発行

下関市立大学広報委員会

山口県下関市大学町2-1-1

TEL 0832(52)0288

FAX 0832(52)8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>

(題字 中山尊名誉教授)



卒業式

2001年度卒業式・2002年度入学式

2002年3月25日、第37回卒業式が挙行政され、経済学部経済学科220名(総代・田村英基君)、同国際商学科234名(総代・松浦孝依君)の卒業証書・学位記が授与された。また、大学院経済学研究科経済システム専攻者4名、同国際ビジネスコミュニケーション専攻者6名(研究科総代・岸本充弘君)に対し修士学位が授与された。大学院は本年が開設2年目にあたり10名は本学大学院の最初の修了者である。晴れ着姿の卒業生を前に、下山房雄学長の式辞(2面に掲載)と市長を始めとする来賓各位からのお祝いのご挨拶が述べられた後、出発(たびだち)のご挨拶が、卒業生総代・角直哉君(国際商学科)、留学生総代・成泰主君(国際商学科)、科目等履修生総代・滝本幸子さん、大学院経済学研究科総代・篠原茂隆君から述べられ、華やかな式となった。また国際商学科の井垣和浩君らの赤馬賞をはじめ、ソフトテニス部など2団体26名の大会好成績や資格取得等に対する後援会表彰式も行なわれた。

4月8日には、経済学科228名と国際商学科279名(うち留学生14名)、大学院経済学研究科11名の新入生を迎えて、第41回入学式が挙行政され、下山房雄学長からは「本当の勉学はこれからです」と激励のメッセージが贈られた。また、研究奨励賞が国際行動医学会に卓越した論文を発表して「日本行動医学会第3回荒記記念賞」を受賞した横山博司教授に、大学振興賞がサークル活動の振興と充実を意図したリーダーシップ・トレーニング制度を始めた他、中四国インターゼミへの参加を継続してゼミ活動の活性化に努力している山本興治教授に、また卒業研究合同発表会を開始し、その後主導的にかかわっている道盛誠一教授にそれぞれ同窓会会長から授与された。



入学式

教養総合講座(鯨大学)について

コーディネータ 山戸 輝雄

4月15日から今年度の教養総合講座「鯨大学」を開講中である。本市で今春、第54回国際捕鯨委員会(IWC)年次会合が開催されるのを機に、大学でも鯨に関する総合的な基礎講座を立案した。この講座は一般にも公開される公開講座でもあるので、市民とともに、この講座を契機として、鯨に対する理解や認識が深まることを期待している。講座は、鯨の種類や生態についての講義に始まり、鯨の保護の必要性を主張するNGOの見解、海洋資源をめぐる捕鯨国と反捕鯨国の意見が対立するIWCの現状、鯨資源について、ホエールウォッチング、捕鯨の歴史、地域と鯨とのかかわり、鯨肉の流通、鯨食文化などをテーマとしている。

講師陣は、大学や研究機関の研究者、国際動物福祉基金の日本代表、捕鯨船の元船手、行政関係者などそれぞれの分野で鯨や捕鯨問題の第一線で活躍されている人たちである。

生態から食文化まで、多角的な視点、多彩なテーマでの講座となるので、鯨や捕鯨問題、さらには現代の環境問題や食糧問題、資源管理の在り方などについての理解を深める好機であるといえよう。多くの受講者のあることを希望している。



海図のある旅へ

—2001年度下関市立大学卒業式学長式辞—

下山 房雄

市大正門に至る道、看護専門学校沿いの白木蓮(こぶし?)は既に散り、体育館横の桜がいま満開に向かおうとしている。「年年歳歳花相似、歳歳年年人不同」の句が想われる。今年の学部卒業生の大半は、私と同じく1998年の春に本学＝下関市大での生活を始めたのである。この4年、諸君は文字媒体を通じて研究し、あるいは経験を通じて学習して自己発達を遂げてきた。私もいくつかの「こと」に出会い、関連情報を学習して、市大とともにある発達をすることができた。

先人の知恵と尽力で築きあげた暖簾が、瞬時に崩れ去る現代である。下関市大も例外ではない。より大学らしい大学への「改革」無しには、下関市大は衰退・消滅に向かうとの私の危機意識は、98年夏に、リクルートの学生アンケート調査でいくつかの評価項目が、下関市大＝260大学中どん尻の位置であったことを知らされ、いっそう促進された。達成に失敗してなお課題として残っている「改革」は、学問の国家からの自由を謳う憲法23条を踏まえ、大学式典での国旗掲揚を止めようとしたことである。他方、成就した「改革」で最大のものは、2000年春の大学院設置だろう。新下関駅の下関案内図には、わが市大はなお college と示されているが、研究所があり大学院があるわけだから university との呼称はもう嘘ではない。今日の卒業式は、その大学院第1回の修士号授与の場である。嬉しいかぎりである。

修士号取得10名、学士号取得454名、科目単位取得9名、それぞれで当然に内容は異なるが、我々がそこに生きているところの社会、人文、自然について、諸君は認識を深めた。認識対象としての外界を海に例えれば、航海するのに必要な海図、磁石、コンパスを、自分の人格の中にそれなりに具備したのである。外界の構造を認識し、そのどこに自分がいるかを確認できれば、客体の中に主体を進めていく航海は可能だ。ただ知識として構造を頭脳に収めているだけではだめだ。街によくみる住居店舗案内図で、その地図の位置が指示されていないのは、殆ど役に立たない。自分の立つ場所をはっきりと位置づけてほしい。井上陽水「闇夜の国から」は、「波まかせ風まかせ」で「海図も磁石もコンパスもない旅へ」の旅立ちを歌う。青年が不安を振り切って未知の世界へやみくもに飛び出して行く気持ちがよく描かれている魅力的な歌だ。しかし私は、それとは違う旅に、つまり高等教育の成果を生かした人生の旅に、諸君が立出することを期待するものである。

そして、その旅の折々に、市大のことを思い出し、HPへのアクセス、同窓会出席などを行って、母校への可能な支援の機会を作ってほしい。下関市大積年の財政構造は、經常費が授業料・入学金の自主財源とほぼイコール、国が地方交付税として市大学生数に応じて積み増ししている市財政資金増分のごく一部を大学臨時費(建物建設費など)にあてるのみという異例のものだ。教授会は最近、このような財政構造を改革し、情報語学センター建設や複数学部化を実現していく課題を、文書「市大発展の途」の形で自覚した。しかし設置者たる市当局の政策方向と、われわれ大学のその自覚との距離は大きい。授業料増収分を大学経費にあてない来年度予算案の作成は、その距離をいっそう大きくした。大学生幼児化と言われる大勢のなかで、この場にいる卒業生の何人かの諸君が、社会的プロテストの行

為にきちんと立ち上がったことを、私は重くかつ頼もしく受け止めた。大学は社会運動体ではないので、その学生諸君とは別のやり方ではあるが、何としても下関市大財政改善のアピールは続けていきたい。卒業生諸君、見守り激励してください。

入 試 状 況

2002年度の入試では、例年通り、推薦入学、特別選抜(帰国子女、社会人、中国引揚者等子女、外国人留学生)、一般選抜、3年次編入学が実施された。志願者数を昨年度と比較すると、全国推薦と前期日程の募集人員を拡大したこともあって、全体として大きく増加した。他方、中期日程の経済学科では、合格倍率が3.3倍であったにもかかわらず、入学手続率は昨年度を下回る結果となった。過去の実績に基づく手続者の動向予測が困難になっている兆候であろう。大学院には11人の入学者があった。2002年度入試状況及び入学者の出身高校別人数(留学生を除く)は以下の通りである。

2002年度入試状況

		学 科 (募集人員)	志願者	受験者	合格者	入学者	実質 倍率
一般選抜	前 期 日 程	経済(60)	457	435	85	65	5.1
		国際商(60)	353	323	104	72	3.1
	公立大学 中期日程 (HCB日程)	経済(105)	1,634	1,025	306	93	3.3
		国際商(105)	1,673	962	310	125	3.1
推薦入学	全 国	経済(30)	96	96	30	30	3.2
		国際商(30)	65	65	31	31	2.1
	地 域	経済(35)	50	50	35	35	1.4
		国際商(35)	43	43	35	35	1.2
特別選抜	帰国子女、社会人、中国引揚者等子女、外国人留学生	経済(5)	4	4	3	1	—
		国際商(5)	8	7	7	5	—
		経済(若干名)	14	12	4	4	—
		国際商(若干名)	60	50	21	10	—
編入学	経済学科(10)	8	8	4	4	2.0	
	国際商学科(10)	17	16	9	6	1.8	
大学院	経済社会システム専攻(5)	8	8	7	6	1.3	
	国際ビジネスコミュニケーション学専攻	6	5	5	5	1.0	

2002年度入学出身校

(数字は人数、数字のない高校は1人入学)

〔北海道〕北見北斗、網走南ヶ丘、石狩南〔秋田〕大館鳳鳴〔東京〕向丘〔富山〕新湊〔石川〕大聖寺、羽咋、鹿西、金沢〔福井〕羽水、北陸、仁愛女子〔長野〕上田千曲、飯田風越〔岐阜〕加納、大垣東、羽島北〔静岡〕清水南、静岡東、掛川西、袋井、星陵〔愛知〕千種、春日井、東郷、岡崎北、桜台、西春、豊田北、高蔵寺、豊田南2、桜丘〔三重〕津西、川越2〔滋賀〕水口東2、米原〔京都〕嵯峨野2、北嵯峨、向陽、塔南、京都成章〔大阪〕千里、長野、金岡、高槻北、西浦、金剛、関西大倉、帝塚山学院泉ヶ丘、初芝富田林〔兵庫〕兵庫、鈴蘭台、星陵2、北須磨、舞子、加古川東、加古川西、社、北条2、三木2、姫路東2、龍野、佐用、豊岡、洲本、須磨東、加古川北、川西北陵、宝塚北、親和女子、近畿大学附属豊岡、外国の学校等、〔奈良〕信貴ヶ丘、智辯学園〔和歌山〕桐蔭、新宮〔鳥取〕鳥取西、鳥取商業2、八頭2、倉吉東2〔島根〕安来、松江北3、松江南、大東、横田、三刀屋、平田2、出雲3、大社2、大田、江津工業、浜田2、益田、松江東6、開星、江の川〔岡山〕岡山朝日、岡山大安寺5、岡山東商業、倉敷青陵、倉敷南、津山商業、玉野2、児島(県立)、笠岡、西大寺、高梁、新見、瀬戸2、倉敷古城池3、総社南2、岡山城東、就実2、清心女子2、岡山〔広島〕

広島皆実2、廿日市、賀茂、安古市4、広、尾道東2、尾道北、三原、福山誠之館、大門3、三次、舟入3、基町、広島井口2、祇園北、沼田、安芸南、広島女学院、鈴峯女子、山陽女子、近畿大学附属福山〔山口〕岩国3、柳井、柳井商業、熊毛南、下松、徳山3、防府2、山口2、山口中央3、宇部中央3、小野田、厚狭4、美祿、田部2、西市2、豊浦11、長府7、下関南7、下関第一8、下関中央工業4、下関工業3、豊北4、大津、下関商業12、防府西2、新南陽2、響2、西京、高水、山口県桜ヶ丘、多々良学園、野田学園、宇部鴻城、香川、サビエル、梅光女学院5、早稲4〔徳島〕城東、城北、小松島、富岡西〔香川〕高松東、高松商業、坂出、琴平、高松第一、高松西、香川中央、三木、香川県大手前〔愛媛〕三島2、新居浜東、西条3、今治西2、今治北、松山東、松山西3、松山南、松山北、松山商業、八幡浜、野村、宇和島東、宇和島南、伊予〔高知〕高知小津、高知西2、土佐、高知学芸〔福岡〕豊津、京都3、門司4、大里、小倉南4、小倉商業2、小倉西5、八幡中央、八幡南、宗像3、西福岡、三池2、八女、田川2、嘉穂、戸畑商業、久留米商業、北筑4、小倉東3、武蔵台、須恵、玄界2、鎮西敬愛、常磐、東筑紫学園、九州国際大学付属2、福岡大学附属大濠2、九州産業大学附属九州〔佐賀〕佐賀西2、唐津東2、伊万里2、武雄、鹿島、三養基、白石2、致遠館4、龍谷、東明館〔長崎〕長崎西、佐世保南、佐世保西、大村、諫早2、猶興館、五島、上五島、西陵、長崎南山〔熊本〕第二、熊本商業2、玉名2、宇土、八代、熊本北2、東稜6、秀岳館、文徳、真和〔大分〕別府鶴見丘、大分舞鶴4、大分雄城台3、日杵、森2、日田2、宇佐2、大分豊府4、大分〔宮崎〕高千穂、延岡、高鍋、宮崎商業、都城泉ヶ丘、都城西、延岡東、宮崎北、〔鹿児島〕甲南2、鹿児島中央4、錦江湾2、川辺、伊集院、川内3、出水、国分2、志布志、鹿屋3、鹿児島玉龍、武岡台5、鹿児島〔沖縄〕宮古、球陽、八洲学園国際〔検定〕大学入学資格検定4

就職状況

平成13年度就職状況

平成13年度の就職環境は、依然、厳しい状況が続いている。平成14年3月末現在の就職率は、男子81.6%、女子91.9%、全体で85.5%であった。これは前年実績を、男子で△4.6%、女子で8.2%、全体で0.3%上回っている。全国的に就職率はやや向上したと伝えられるが厳しい状況は続いている。この様な状況において本学はかなり善戦したといえる（特に女子は健闘）。なお、大学院進学者は本学大学院5名を含め、11名であった。

平成14年度就職(採用)環境

平成14年度は、経済不況にやや回復の兆しがみられるが、消費も思う様に伸びず、雇用環境は依然厳しい。採用活動の自由化(採用活動時期・内定時期・採用方法)は一層進展してきている。就職協定廃止6年目となり、採用活動の前倒傾向が一般に強まっているが、ほぼ企業の採用方法は学生に周知徹底されてきており、本学学生も活発に活動中である。特色としては、有能な即戦力を求める傾向が強まり、通年・中途採用を実施する企業が増加したことや、新卒採用を含め企業が人材を選別する目は一層厳しくなっている。また、企業概要をHPに載せるだけでなく、エントリーシートの請求やエントリーそのものをネット上で受けつけるなど、インターネットを採用活動に活用している企業がますます増加している。

平成14年度就職活動計画

① 4年生個人面談

昨年同様、2月19日から4日間、就職委員会の教員が学生(約300名)と個人面談を行い、学生本人の就職希望を聞き、就職アドバイスを実施した。続いて、企業に推薦する学生面接を3～4月にかけて実施した。今年度の4年生はますます厳しくなることが予想される雇用環境の変化に対応し、積極的に活動している学生が多くなった印象を受ける。

② 企業開拓活動

就職委員の一部異動により、8名が分担して、優良企業約200社を目標に、求人依頼などの企業開拓を行い、現在も継続中である。

③ 公務員試験・企業筆記試験対策

第一回公務員ガイダンス(国Ⅱ、地方上級対策)は6月中旬に人事院中国事務局から講師を招き実施予定。また、ピアオ(全51巻)による公務員・企業筆記試験対策講座会員を募集(対象者全学年/5千円)。就職相談室で希望者の受付を行っている。専門講師による教室での講義(全130コマ)は9月より実施予定。両講座とも積極的に参加することを期待している。また、教員採用試験対策模試を実施して行く。

④ インターネット

今や就職活動に必須のものとなっているインターネット接続PCを就職相談室に4台、学術センター地下電子計算機実習室に120台設置。学生が自由に企業の情報収集、資料請求、セミナー申し込み等に活用できるようにしている。学生個人のメールアドレスは3年生の秋に配布。また、就職相談室のアドレスは、shusyoku@shimonoseki-cu.ac.jpである。

⑤ 各種証明書配布

卒業見込証明書は教務部において、成績証明書は各人3部就職相談室にて4月1日より発行。(追加の場合は教務部窓口へ申請のこと。)

⑥ 個別就職相談

個別就職相談日(月、火、水、金曜日)を設け、就職委員が就職相談室で待機し、相談に応じている。それ以外の日時であっても、教職員が適宜対応している。

平成14年度就職委員会

本年度のメンバーは以下のとおりである。

就職委員長	佐々由宇	教授
就職副委員長	櫻木晋一	教授
就職委員	西戸隆義	助教授
就職委員	佐藤隆	助教授
就職委員	山田留里子	助教授
就職委員	関野秀明	講師
就職委員	正村豊	事務局長
就職委員	下田薫次	事務局主査
就職委員	岡崎弘文	学生部補導係
就職相談室長	永田繁芳	
就職相談室員	堂下邦江	

「インターンシップ元年」

インターンシップ委員会委員長 川本 忠雄

本年度より、インターンシップ(就業体験学習)を正式な授業科目として実施していくことになった。昨年度の試行の成功を受け、1月に正式に委員会新設(教職員10名)、3月に実施要項がまとまった。

(目的)①社会認識と職業意識の向上②大学教育と研究の活性化③地域・社会への貢献。(日程)事前学習後、8月中～下旬、就業体験を1～2週間(35～80時間)実施し、事後に詳細な報告書提出・学内発表会を行う。(単位認定)「インターンシップ」2単位として認定する。自発学習科目の履修となる。(対象者)本学2～3年生。費用は自己負担であり、「災害保険」「賠償保険」への加入が義務である。原則として無報酬。

(スケジュール)3～5月、委員による受入先事業体の開拓。6月、学生に対して実施スケジュール公表(日程、受入先名など)。学生は応募票提出。7月上旬、応募学生の面接後、受講者決定。7月下旬、予備ガイダンス・事前講習。8月中～下旬、就業体験実施。10月、報告集作成後、学内報告会実施。その後、単位認定。

5月10日現在、受入可能事業体12、受入可能人数約20名である。インターンシップの意義を理解し、意欲旺盛の学生は、奮って応募されたい。

新任教員挨拶

マーク フリン(Mark Flynn)



はじめまして。私はオーストラリアから参りましたマーク・フリンと申します。

“はじめまして”と申し上げましたが実は1998年から2000年までもこちらで常勤嘱託講師をしておりました。この度縁あって再び4月より大学の員となりました。

初めて日本に来たのは1985年でそれ以来何度も日本に来ています。初めて日本に住んでいた頃にアジアについて研究しておりましたので、グリフィス大学アジア国際学部でさらに研究を行いました。また私は様々な国々の人達と出会い話をすることが好きなので、英語を教えることはとても良い機会であると思い下関に参りました。

グリフィス大学は世界中から多くの学生達が集まってきたりとも国際的な雰囲気を持った大学ですが、市大も多くの留学生が学んでいることに驚きました。私はまた交換留学生として東京で勉強していたことがあるので国際交流の重要性を認識しております。交換留学生としての経験から異国での生活はとても大変である一方とても有意義なものであることを知っております。辛い経験も含めて全て最後には良い経験になります。

下関に来ましてこちらの人はとても親切だと感じました。また大学の雰囲気も大変良く皆さんから親切にして頂いています。私は多くの人達と会う事を楽しみにしております。どうぞ気軽に私の研究室に立ち寄って下さい。

孟 桂 蘭



万物が新たなる麗しい春を迎え、私は、前任教師を引き継ぎ、青島大学から美しい下関市立大学に赴任してまいりました。これは、私にとって、目新しいことでもあり、また同時に熟知していることでもあります。目新しいこととしては、新しい環境や初めてお目にかかる人たちです。熟知していること

と申しますと、古い友人の親しい笑顔であり、また青島大学からやってきた教師としての私に対する新しい友人からの特別な思いやりです。更に熟知していることとしては、中日両国民の悠久な歴史のある友好感情です。

下関の市内で、私は、勤勉な日本人の丹精こめた家庭の庭園を鑑賞し、身は異国に置きながら、至る所で自国の暖かさを感じております。大学では、学長はじめ教師・職員の皆様のお世話になり、忘れがたいことが多く、私の感動する情景で美しい絵巻物ができそうですし、私が日本で過ごす一年の美しい思い出の一部となることでしょう。

中国語の教師として、私が尽くさなければならない責任は、学生の中国語学習の積極性を引き出し、彼らの興味を養うことです。中国に“教学相長（教育を通じて、学生が進歩するばかりでなく、教師も向上する）”という言葉があります。学生を真に理解しさえすれば、教師と学生の真の交流が達成され、教育の水準を高め、その基礎の上に、中国語の水準を高め、中国の歴史、文化や風俗・民情の理解が可能となります。私も他の青島大学の教師同様、下関

市立大学の先生や学生との交流の中で、中日双方の相互の理解を促進し、中日友好のため、青島と下関、青島大学と下関市立大学の友好のために、努力し貢献したいと思っております。

ロビン ビーン(Robyn Bean)



私が日本に来たのはこれで3回目になります。最初の来日は高校の修学旅行でした。日本については何もわからないまま、長崎県の田舎町での生活を存分に味わいました。それが契機となって大学で日本語を専攻するに至り、交換留学生として高知大学に一年間在籍しました。此の度の訪日では市大の教員として英語教育に貢献できる機会を得て幸運です。

下関、高知、長崎は確かにそれぞれ異なるところもありますが、不思議に似通った点多々あるように感じます。それぞれが長い伝統に支えられた落ち着いた街で、海に近く、自然が豊か。方言の問題も人々の温かい人情のなかではほとんど感じられません。下関に来てからも多くの方達にお世話になり、人の親切が身に沁みます。日本語というのは不思議な力を持っていて、日本語を話せば話すほど、人情というのはどこに行っても変わらないものなのだというを感じさせられます。

市大の学生は概しておとなしく、はじめはびっくりしました。しかし、そこにある良さもみつけるようになりました。私の方としては、授業を楽しんでもらうように工夫を凝らさなければなりません。英語学習の楽しみがわかった時に、自信というものが湧いてくるものだと思っております。

退任教員挨拶

市大を去るにあたって

長谷川 廣

下関は坂の多い街である、というのが私の下関にたいする第一印象でした。その坂道を、いつも上ったり下ったりして大学に通いました。

そしてもう二年がたちました。月日のたつのはほんとうに早いものです。歳をとると余計にそう思うようになるのかもしれませんが、短い期間ではありましたが、多くの人々に支えられ、世話にもなりました。まだそれを懐かしむというほどの時はたっていないませんが、いつかそれを懐かしむという時が必ずくるだろうと思います。多大の感謝とともに。

思えば、本学に赴任してきた時に私はこう書きました。「あの人が来てくれてよかった、と少しでもそう思われるように日々努力したい」。そして「本学を去る時には、『いい大学にきてほんとうによかった』といえるような、そんな学園生活をひそかに期待しております」と。その気持ちにうそはなかったのですが、はたして本学のためにどれだけ役立ったかといえ、その点では疑わしいといわざるをえません。ただ私が本学に赴任した主な理由であります大学院修士課程の創設・自立という問題は達成されましたので、一応胸をなでおろしております。後者の問題につきましては、本学に来て本当によかったと思っております。その点では、多くの教職員の皆さんと授業に参加してくれた学生諸君に感謝したいと存じます。本学のますますの発展と皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

市大の10年間

谷口 匡

1992年からちょうどまる10年、中国語を担当したが、資質からいって適任ではないとも感じていた。よく10年動まったものだと考えると冷や汗がでる思いである。

しかし授業は楽しかった。特に98年に同じクラスを週に2度担当するようになって以来、この20人ほどの学生たちに、中国語の基礎だけはしっかり身につけてほしいと思って私なりの方法を試みてきたが、次第に手応えも感じられるようになった。また、青島大学への短期留学には5度も引率で行かせてもらった。この留学は参加者こそ多くなかったが、毎回、不思議によい学生に恵まれたと思う。さらには1回限りであったが、92年度入学生に対して特別に専門演習がもてたのは忘れられないし、2000年に開学した大学院で、経済学の課程であるにも拘わらず、本来の専門である中国文学の授業を担当できたのは幸せだった。私はずっとゼミをもつことが夢であったが、こうしたさまざまなことを通じて結果的にはそれに等しい経験ができた。現在、卒業生や大学院の受講生が中心となり、毎月、市民の方の家を会場として読書会を開いてくれているので、昔、頼山陽が旅の途中に下関で旅装を解いたように、京都からはるばる出かけていくことを楽しみにしている。

最後になったが、この10年間、拙い教員である私を支え、成長させて下さった市大の方々、また市民の方々に心から厚くお礼を申し上げる。

下関での思い出

韓 衛 華

にぎやかな青島に帰って、既に一ヶ月となった。この一ヶ月の間、私はいつも静かで素朴な下関とやさしくて親切な友達を思い出してくる。

私は実にラッキーだと思う。市大の庶務系の職員たちはいつも衣食住の問題を解決してくれたし、他の先生方も各々の方式で世話をしてくれた。いろいろ迷惑をかけて、気が済まなくてやまない。

家族のような友達と一緒に過ごした時がとてなつかしい。彼らは大体四年生の聴講生だ。彼らが中国語を学ぶ情熱が私を感動させた。おかげでちょっと大変な授業も一つの楽しみとなった。日本の歴史と文化を体験する機会を与えてくれた。美しい桜、紅葉とおいしい刺身とラーメンをも楽しむことができた。これらの熱心な人はいつまでも忘れられない。

中国経済の発展につれて、中国語もますます重視されてきた。それでも120名もの学生達が「中国語実習」という講義を選んだことに驚きを感じた。中国語はひっきょう英語のように世界共通の言語になれないからだ。

谷口先生と山田先生が中国語教育に精いっぱい取り組んでいる姿をみて、私は姉妹校からの中国語講師として、積極的に協力することは逃れない責任だと感じた。市大の多くの学生は言語を習う才能を備えていると思う。努力さえすれば、きれいな中国語が話せるはずだ。より多くの学生が外国語の重要性がわかって、すすんで中国語を勉強することを希望している。そして、彼らには明るい将来があると思う。

一年間の体験を通してみれば、両国にはたくさんやさしくて親切な人がいるとわかった。もっと交流を促進し、理解を深めれば、互いの国でよりたくさんの方と友達が見つかること信じている。

Letter to City Univ.

James Laurenceson

Upon completing my Ph.D. in economics at the University of Queensland, I was given the opportunity to teach at Shimonoseki City University. In total, I stayed for 15 months before returning to the University of Queensland at the start of 2002. The experience afforded to me of living in Japan, and working at Shimonoseki City University, was wonderful. Everyday was a new experience and I found that I missed Japan very much after I returned to Australia.

Despite my non-existent Japanese language ability, my colleagues and friends in Japan were always so helpful and patient with me. I am particularly grateful for the friendship extended to me by Uchiyama Sensei. Apart from the opportunity of conversing with students, I was also able to make friends in the wider community by taking Shimin Daigaku English conversations classes. The support of Shimonoseki City University in advancing my economics research, through providing funding for books and travel, was also greatly appreciated.

I will always have fond memories of my time in Shimonoseki and intend to return as often as I can to visit.

Kind Regards.

外国人留学生の増加、82名に

本年度の外国人留学生の総数は昨年より9名増えて、82名(4月現在)になった。学部留学生は1年生が14名、2年生が17名、3年生が18名、4年生が17名。1年間の交換留学生が7名、同じく1年間滞在の科目等履修生が4名(タイ1名、トルコ1名、中国2名)である。大学院生は5名。



◀金 昌柱

キム・チャンジュ
東義大学校(韓国)

林 采連▶

イム・チェヨン
東義大学校(韓国)



◀施 芳

シ・ファン
青島大学(中国)

喬 徳良▶

チャオ・ドリアン
青島大学(中国)



◀Stephanie Karangis

ステファニー・カランギス
グリフィス大学(オーストラリア)

Kristen Sullivan▶

クリステン・サリバン
クイーンズランド大学(オーストラリア)



◀Alistair Deane

アリスティア・ディーン
クイーンズランド大学(オーストラリア)

写真は交換留学生

ケンブリッジ大学滞在記

日本史担当教授 櫻木 晋一

ケンブリッジ大学ウルフソンコレッジに所属し、大学付属のフィッツウィリアム博物館をベースに一年間の研究生生活をおくってきました。この博物館は1849年開館で、部局のひとつとしてコインズ&メダルズがあり、ここの資料を活用しながら大学の講義が行われています。幸いなことに私も日本近世史の1コマを、所蔵貨幣を使用しながら講義する機会に恵まれました。ヨーロッパでは考古資料を使用した貨幣研究が盛んで、ケンブリッジ大学はその拠点のひとつになっています。従って、考古資料を活用しながら日本貨幣史研究をしている私にとっては、ここで多くの有益な情報を得ることができました。

ケンブリッジ大は1コマ50分で3学期制です。10名程度の少人数教育が多く、毎時間活発な質問が飛び交っています。予習にかなりの時間を割いていることが、その発言内容からよく分かります。学期中はアルバイトなどせず、休暇に入ると長期の貧乏旅行に出かけ社会勉強をするといった、メリハリのきいた彼らの生活態度を日本の大学生にも見習わせたいものです。華美・軽薄さが目立つ日本社会に対し、質実剛健そのものです。大学は如何にあるべきかという問題について考えさせられました。

ケンブリッジ大学では現在でも黒いガウン着用の晩餐会が、30以上ある各コレッジで日常的に行われています。薄暗いホールでとるディナーは、英会話という重圧も重なり、私にとって決して愉快なものではありませんでしたが、クラシックでアカデミックな社会を実感できる良い機会になりました。大学内でまず聞かれることは、所属コレッジがどこかということ、次に専門は何かとなります。このようにコレッジのウエートが高いということも、現地に行き初めて知りました。コレッジは寝食を共にする生活の場であり、その絆の強さを窺い知ることができます。プライドの高さや大学共同体としての意識が強い閉鎖的な面もありましたが、世界各国から集まっている研究者たちに混じって、1284年創立の伝統ある名門大学で研究生生活をおくれたことは、自分の研究・教育にとって大変実り多いものになりました。ロンドン大英博物館の日本貨幣調査を実施できたことも大きな収穫でした。日本国内に残っていない日本貨幣も所蔵されており、近いうちにその全貌を明らかにしたいと考えています。

英国滞在中最も強く感じたことは、大半の西洋人にとっ



て今でも日本の存在は、まさにファーイーストであるということです。彼らは日本に興味を持ち、日本企業の知名度などは高いにもかかわらず、その政治・経済・文化・歴史などについて、あまり理解していないというのが実情です。われわれが日本人としてのアイデンティティを失わず、正確な情報発信する必要性を痛感しました。今後もこの大学との交流を続けていきたいと考えています。

友誼の桜—青島大学研修を終えて

中国語担当助教 山田留里子

帰国の日、優しい笑顔の桜が青島大学の宿舎に咲きました。「桜の咲く頃また青島に来て下さい」と語っているようでした。ここで、青島大学でお世話になりましたすべての方々に心から感謝の意を表したいと思います。さて、青島大学での活動について少し報告させていただきます。私の専門が中日言語比較を研究対象とするため、日本語学部での授業(ゼミも含む)を郭日本語学部長との連携により、主に4年生を中心に行いました。12月5日には、「下関市立大学における中国語指導方法と現状報告」と題して、対外中国語教学教師を対象に開催しました。沢山の先生方の参加で活発な意見交換が行われ、これからも引き続き開催して欲しいとの意見が多くありました。12月27日の「下関市立大学・青島大学学長杯日本語弁論大会」は両大学交流10周年の記念行事として盛大に開催されました。下山学長、下関市日中友好協会の金田会長、鶴田副会長をはじめとする沢山の先生方の応援のもと、開催する運びとなりました。本学の佐々教授には遠路はるばる審査委員長として参加して頂きました。予選を勝ち抜いた11名の学生は、会場を埋め尽くした200名の学生や先生方の見守られる中、最後までやり抜きました。そして大会当日まで、何度も熱心に私のもとを訪れ弁論の練習を重ねる学生たちの姿に、市大での中国語弁論大会が一瞬、見えたような気がしました。



この時「青年を尊重し、青年を抜擢し、青年から学べ」という周恩来総理の言葉を思い起こしました。本年は日中国交正常化30周年。帰国前、私は光栄にも「客員教授」の称号を頂きました。その授与式で謝辞の意味で少し話をさせて頂きました。「船を政治や経済とするなら、海は私たち民衆です。船は沈没することもあるでしょうが、海さえあればどこまでも前進することができます。これからは青島大学と下関市立大学の発展交流のために人材を育成してまいります」と。

大学院修士号10名に授与

大学院研究科長・日朝関係史担当教授 木村 健二

本学大学院では、2002年2月22日の最終試験(面接)を経て、本学としては最初の修士学位を、以下の10名に授与しました。

- ・岸本充弘『下関における鯨産業発達史』
- ・玉中忍『中世日本の銭貨流通—東アジア圏の視点を含んで—』
- ・新田智洋『廃棄物対策の系譜と諸課題に関する一考察』
- ・三浦大二郎『現代経済システム批判—地域通貨という視点から—』
- ・姜ウォンソク『北東アジア自治体が主導する経済交流の可能性』
- ・篠原茂隆『近代中国における革命文学の形成と日本留学体験—魯迅・郭沫若を中心として—』
- ・野中誠司『グローバル化時代における企業の人材育成—英語を軸としたコミュニケーション能力の養成に関する一考察—』
- ・藤井佳代『効果的な援助のためのODAとNGOの連携—日本のNGOの現状を踏まえて—』
- ・宮田高『グローバル化の進展と東アジア地域の経済統合—ASEANの貿易・投資構造を中心として—』
- ・鎌矢和人『ホテルにおける経営分析と経営戦略についての一考察—ホテルのハイテク化を視野において—』

ついで3月21日には、大学院学会主催で、修士論文発表会を開催し、上記のうち8名が、午前10時から午後5時まで、それぞれの論文の概要を発表しました。休日にもかかわらず、教員・市民など50名近くが参加し、活発な質疑応答は、さながらミニ学会の様相でした。

3月28日には、これらの修士論文のリライトしたものを、下関市立大学大学院論集『研鑽』創刊号として1冊に収録し、市長に贈呈しました。今後は文字通り、修士論文を研究の出発点とし、研鑽に励んで欲しいと思います。

教員著作目録 (2001年4月～2002年3月)

- 加来和典**：(共著)鈴木広監修『家族・福祉社会学の現在』ミネルヴァ書房、2001.6
- 金尾敏寛**：(単著)金尾敏寛著『増補 価格・資金調達と分配の理論』日本経済評論社、2001.10
- 金子 肇**：(共著)姫田光義編著『戦後中国国民政府史の研究』中央大学出版部、2001.10
- 木村健二**：(共著)金容徳・宮崎博史共編『대 교류사와 상호인식 I』高麗大学校亞細亞問題研究所、2001、(共著)edited by S.Sugiyama and Linda Grove, "COMMERCIAL NETWORKS IN MODERN ASIA," Curzon Press, 2001.
- 平岡昭利**：(編著)『北海道 地図で読む百年』古今書院、2001.5、(編著)『水車と風土』古今書院、2001.8、(共著)『日本地名地図館』小学館、2002.3
- 堀内隆治**：(共著)坂脇・中原編『新版 現代日本の社会保障』ミネルヴァ書房、2002.2
- 山田留里子**：(共著)『ドクター・ベチューン』駿河台出版社、2002.3、(共著)『中国語の花東』駿河台出版社、2001.11、(共訳)竹内実監修『長江—正義と勇気の大海へ』(上巻)晃洋書房、2002.3
- 横山博司**：(共著)上里一郎監修『臨床心理学と心理学を学ぶ人のための心理学基礎事典』至文堂、2001.10
- 米田昇平**：(共著)『再生産秩序と自由：F.ケネー』高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会、2002.3

エコロジカルなキャンパスに —「エコキャンパス推進委員会」発足—

エコキャンパス推進委員会委員長 坂本紘二
事業所などが事業の経営・活動を通じて環境に与える負荷をできるだけ減らすよう配慮する「環境マネジメントシステム」に関する国際規格が「ISO14001」。企業だけでなく役所や大学などでもそれを認証取得する組織が近年増えている。下関市も、2002年度中に取得しようとして昨年10月に「認証取得推進室」を設置し、今年から相次いで各部署の責任者・関係者への研修会が行われ、4月からは、事前調査、環境影響評価調査が始まっている。

市の方針としては、市役所全体の諸施設を含む範囲で取得する方針。本学も適用範囲に組み込まれる。認証取得に積極的に協力して学内での環境マネジメントに取り組み、これからのエコキャンパスづくりを現実のものにしなければならぬ。そのために昨年末の教授会で承認を受けて「エコキャンパス推進委員会」を結成した。

メンバーは、教員、職員、生協および学生代表(中央執行委員会)から各2名ずつの計8名。学生も含めて関係各主体がいっしょになって会を組織するのは初めてのことである。当面、市の推進室と連携し、マニュアル作成等の指

示を受けながら、作業計画を策定し、調査活動を行ない、文書作成等の作業を進めるが、「ISO14001」では、構成員一人ひとりがどのように環境保全に取り組んでいるか、どれほどエコ意識が高まるようになって行くのか、第三者の評価を受けることになる。総参加でエコキャンパスづくりに取り組むために本学構成員みなさんの協力を切にお願いしたい。

図書館からのお知らせ

☆図書館の利用状況をお知らせします。

○利用者数

年度	平日	土曜	日曜
12年度	316	110	105
13年度	270	101	97

数字は1日平均利用者数(人)

○夜間利用者数

時刻	12年度	13年度
19時	25	22
20時	18	17
21時	11	11

数字は年間の平均(人)

平日は21時30分まで開館しています。また、土曜・日曜も開館していますので、もっと積極的に図書館を利用しましょう。

☆ 図書返却について

最近、返却を守らない方が増えています。他の利用者に迷惑をかけるので、返却日は厳守してください。返却が遅れた場合、その日数ほど図書が借りれなくなります。

同窓会だより

下関市立大学同窓会は、会員相互の連絡、親睦を含め、母校の発展に資することを目的として下関市立商業短期大学と下関市立大学の卒業生及び大学院修士課程生有志で組織されています。下関市立大学4年制昇格40周年を記念して、平成14年7月6日(土)に東京大丸ビルホールで「東京の集い」を開催します。全国に15支部があり、毎年各地で支部総会を開催しています。現在の主な役員を掲載しますので活用して下さい。

- 本 部 会 長** 飯田 要(市大1期卒)
0832-52-0288(下関市立大学事務局)
- 副会長** 桥谷 學(市大1期卒)下関市
0832-67-6060
- 副会長** 原 義治(市大1期卒)東広島市
0824-23-7660
- 副会長** 山田 堅次(市大1期卒)広島市
082-581-0226
- 副会長** 柴田 勝利(市大3期卒)長崎市
0958-27-5692
- 副会長** 藤原 久幸(市大4期卒)加古川市
078-941-2341
- 東京支部** (東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県)
支部長 森川 良二(市大3期卒)042-796-4940
- 中部総支部** (愛知県・三重県・岐阜県)
支部長 梅谷 道明(市大3期卒)052-354-2149
- 関西支部** (大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県)
支部長 井上 秀行(市大1期卒)
06-6441-1931(ダイビル㈱)
- 和歌山県支部** 支部長 坂本 喜信(市大2期卒)0736-37-2324
- 岡山県支部** 支部長 前川 淳(市大1期卒)086-526-0078
- 広島県支部** 支部長 細井 資伸(市大9期卒)
0849-24-3305(㈱ホソイ鑑定)
- 島根県支部** 支部長 杉原 信之(市大2期卒)0852-24-6276
- 山口県支部** 支部長 桥谷 學(市大1期卒)
0836-62-1010(麻生)
- 愛媛県支部** 支部長 大西 淳介(市大4期卒)089-984-2742
- 福岡県支部** 支部長 築地 正明(市大2期卒)092-512-4566
- 大分県支部** 支部長 清原 宏(市大1期卒)097-542-4810
- 熊本県支部** 支部長 中村 裕(市大2期卒)096-353-2537
- 長崎県支部** 支部長 鎌田 博(市大2期卒)0957-26-0704
- 宮崎県支部** 支部長 永野 良明(市大1期卒)0985-26-4414
- 鹿児島県支部** 支部長 西元 宏海(市大1期卒)099-206-8043

14年度予算

大学の平成14年度予算は、12億9,146万9千円で前年度比192万3千円の減額となりました。

前年度と違った主な内容としては、

- ・オープンキャンパスに係わる予算を増額して計上しています。
- ・インターシップに係わる予算を新たに計上しています。
- ・教員紹介冊子作成に係わる予算を新たに計上しています。
- ・図書館の電子ジャーナルに係わる予算を新たに計上しています。

なお、業務別内訳は次表のとおりです。

平成13・14年度業務別予算 (単位：千円)

区 分	平成13年度	平成14年度
一般管理業務	1,085,823	1,068,537
教員研究業務	42,515	42,696
教務業務	46,294	54,029
大学院教務業務	5,722	6,650
センター試験業務	5,540	6,102
学外入試試験業務	6,525	6,774
厚生補導業務	4,570	5,667
留学生支援業務	6,110	5,993
図書館業務	46,715	49,967
ネットワーク・情報教育	31,818	30,418
大学事務電算化	6,240	8,157
産業文化研究所	1,333	1,903
小 計	1,289,205	1,287,092
市民大学講座業務	1,187	1,377
関門地域研究業務	3,000	3,000
小 計	4,187	4,377
合 計	1,293,392	1,291,469

教職員異動一覧

新任教職員

氏 名	担当科目	前任	異動年月日
M. フリン 講 師	英 語	北九州高専	14.4.1
孟 桂蘭 常勤嘱託講師	中 国 語	青島大学	14.4.1
R. ビーン 常勤嘱託講師	英 語	聖マーガレット女子高	14.4.1
倉重 隆 事務局次長		健康事業局業務課	14.4.1
木本恵美子 主 査		教育委員会青少年課	14.4.1
矢上 誠 主 事		社会福祉課	14.4.1
吉瀬 行彦 主 事		市民活動課	14.4.1
白石 学 主 事		環境衛生課	14.4.1
木谷 友美 主 事		市民サービス課	14.4.1

昇任教職員

氏 名	職 名	昇任年月日
新内 和美	主 幹	14.4.1
関岡 健	主 幹	14.4.1
下田 薫次	主 査	14.4.1
滝 保明	主 任	14.4.1

異動教職員

氏 名	担当科目	異 動 先	異動年月日
谷口 匡 助 教授	中 国 語	京都教育大学	14.3.31
A. デウィット 助 教授	経済政策論	立 教 大 学	14.3.31
韓 衛準 常勤嘱託講師	中 国 語	青島大学	14.3.31
J. ローレンス J. ソン 常勤嘱託講師	英 語	クイーンズランド大 学	14.2.28
高山 泰典 館 長		下関図書館	14.4.1
高田 昭文 課長補佐		下水道業務課	14.4.1
松浦登美子 支所長補佐		勝山支所	14.4.1
和田 守正 係 長		環境衛生課	14.4.1
柳本 文恵 主 任		勝山支所	14.4.1
藤永 真一 主 事		企 画 課	14.4.1

退職教職員

氏 名	退 職 理 由	異動年月日
長谷川 廣 教 授	定 年	14.3.31
松原 一泰 教 授	定 年	13.6.1
T.J. ラトキン 助 教授	帰 国	14.3.31

行事記録 (2002年1月~5月)

- 1月 4日(金) 公務始め
- 8日(火) 授業開始
- 19日(土) 大学センター試験 1/20まで
- 26日(土) 特別選抜(中国引揚・留学生)入試
- 30日(火) 秋学期補講 2/1まで
- 2月 1日(金) 特別選抜(中国引揚・留学生)合格発表
- 5日(火) 秋学期(後期)試験開始 2/18まで
- 25日(月) 一般選抜前期日程入試(下関・大阪)
- 3月 7日(木) 一般選抜前期日程入試合格発表
- 8日(金) 一般選抜中期日程入試(下関・大阪・福岡)
- 9日(土) 一般選抜前期日程入学手続開始 3/15まで
- 21日(木) 修士論文発表会
- 22日(金) 一般選抜中期日程・大学院入試合格発表
- 23日(土) 一般選抜中期日程・特別選抜(中国引揚・留学生)大学院入試入学手続開始 3/27まで
- 25日(月) 卒業式
- 4月 1日(月) 春季休業開始 4/7まで
- 8日(月) 入学式
- 9日(火) 春学期(前期)授業開始 健康診断 4/12まで オリエンテーション 大学院オリエンテーション
- 19日(金) 履修届提出締切
- 5月 7日(火) 履修確認 5/8まで
- 10日(金) 留学生歓迎会

平成14年度年間行事予定 (2002年6月~2003年3月)

- 6月 1日(土) 開学記念日
- 14日(金) 第1回就職ガイダンス
- 21日(金) 入試説明会
- 7月 5日(金) 春学期(前期)試験時間割発表
- 16日(火) 夏季集中講義開始
- 16日(火) 夏季休業開始 8/31まで
- 8月 3日(土) オープンキャンパス
- 9月 2日(月) 春学期(前期)補講 9/4まで
- 5日(木) 春学期(前期)試験開始 9/18まで
- 中旬 第2回就職ガイダンス
- 10月 5日(土) 大学院入試(一次)
- 7日(月) 秋学期(後期)授業開始
- 履修届締切 10/16まで
- 15日(火) 大学院入試(一次)合格発表
- 21日(月) 大学院入学手続開始 10/25まで
- 11月 上旬 大学祭(前夜祭)
- 23日(土) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)・編入学入試
- 中旬 第3回就職ガイダンス
- 12月 2日(月) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)・編入学入試合格発表
- 21日(土) 冬季集中講義開始 1/7まで
- 25日(火) 冬季休業開始 1/7まで
- 27日(金) 公務納め
- 1月 6日(月) 公務始め
- 18日(土) 大学入試センター試験 1/19まで
- 25日(土) 特別選抜(中国引揚・留学生)入試
- 27日(月) 秋学期(後期)試験時間割発表
- 29日(水) 秋学期(後期)補講 1/31まで
- 31日(金) 特別選抜(中国引揚・留学生)合格発表
- 2月 4日(火) 秋学期(後期)試験開始 2/18まで
- 25日(火) 一般選抜前期日程入試(下関・大阪)
- 中旬 第4回就職ガイダンス
- 3月 7日(金) 一般選抜前期日程入試合格発表
- 8日(土) 一般選抜中期日程入試(下関・大阪・福岡)
- 9日(日) 一般選抜前期日程入学手続開始 3/15まで
- 16日(日) 大学院入試(二次)
- 22日(土) 一般選抜中期日程・大学院入試合格発表
- 23日(日) 一般選抜中期日程・特別選抜(中国引揚・留学生)・大学院入学手続開始 3/27まで
- 25日(火) 卒業式

編集後記

本号から吉津学生部長を委員長とする新しい広報委員会がスタートした。大幅な委員交代に伴う不慣れさゆえ、執筆者各位に対して多大なご迷惑をおかけした。まずもってお詫びとお礼を申し述べたい。ここに皆様のおかげで公刊の体をなしたことに編集委員一同深く感謝したい。(衛藤)